

台東区の文化特性

上野の山の芸術、浅草の大衆芸能、四季折々の伝統行事。そして、日々の暮らしに根ざした下町の生活文化。台東区は主として江戸以来の歴史と伝統のもとに、下町庶民の文化と新しい文化が出会い、刺激し合いながら個性豊かな文化を育んできた都市である。

首都東京にあって、台東区の持つ文化資源は特筆すべきものがある。文化とりわけ粋、豊かな人情、職人氣質、進取の気性など、心を感じる下町の生活文化が、台東区の人とまちの活力と魅力をつくってきた。

また、多彩な伝統工芸産業が息づき、靴や鞆などのファッション関連産業等も発達し、一方年間3,000万人の観光客も訪れるなど文化と産業・観光が密接に結びついた都市文化で潤うまちである。

1. 歴史と伝統のまち

史跡をはじめとする歴史的遺産が数多く存在する。

三社祭や入谷朝顔まつり、隅田川花火大会などの伝統行事が四季折々にあり、区民の生活の中に溶け込んでいる。

上野、浅草をはじめ区内には多くの神社仏閣が存在し、歴史的な街並みを形成するとともに、地域の文化を育んできた。

西に上野・谷中の台地と不忍池、東に下谷・浅草の平地や隅田川を擁するなど、地形の変化が豊かな景観を育むとともに、四季を織りなす風物ともあいまって、多くの名所をつくり出してきた。

上野と浅草は、江戸の昔から名所として名高く、盛り場としても大いに発展してきた。文化の情報発信地として、その賑わいが今日まで続く、全国でも極めてまれな地域である。

2 . 芸術と芸能のまち

上野は、東京国立博物館をはじめ多くの博物館・美術館、ホール等の文化施設や東京藝術大学等の学術・教育機関が集積している。文化・芸術の創造とこれに関わる情報の発信及び受信のまさに拠点となっている我が国有数の地域である。

台東区には、演劇、落語、漫才、講談、浪曲、映画館など芸能に関係する施設が集まっている。特に浅草六区は、数多くの時代を彩るスターを輩出しており、芸能の一大中心地として大衆文化創造の重要な一翼を担っている。

江戸時代はもちろん、明治以降も幸田露伴をはじめ久保田万太郎、石川淳、円地文子、池波正太郎など台東区では多くの著名作家を輩出してきた。さらに森鷗外や正岡子規、樋口一葉など本区在住時代に主要な創作活動を展開した作家が大勢おり、それは日本の近代文学の流れそのものといっても過言ではない。

3 . 下町の生活が息づくまち

江戸時代からの歴史と伝統を有し、今も優れた技術や進取の気性、粋でいなせな下町気質が色濃く残っている。

地方から腕一本を頼りに上京した人たちが定着して職人のまちを形成し、義理や人情、やせ我慢を大切にする江戸っ子の風情を育んできた。

谷中や根岸など生活感にあふれた路地裏が多く、下町独自の地域コミュニティを形成している。

4 . 文化と産業・観光が結びつくまち

上野のアメ横、浅草の仲見世、御徒町の宝飾貴金属街、浅草橋の装飾繊維商店街、蔵前の人形・玩具街、合羽橋の道具街、浅草通りの仏壇仏具街など、多くの特徴ある商店街、問屋街を形成している。多くの老舗が軒を並べ、商業活動を通じて、古き良き時代の生活文化を来訪者に対し提示している。

伝統産業やファッション関連産業が集積し、また国内有数の観光地として、文化と産業・観光が密接な関係を持って発展してきている。

入谷朝顔まつり

